

仙台国税局長賞

## 「パラサイト」

福島市立岳陽中学校

三年紺野 遼太

僕の両親がスウェーデンに住んでいる時にスウェーデン人のおばさんから言われた言葉。おばさんから見たら、東洋人の両親が、国から援助を受ける難民に見えたのかもしれない。「寄生虫」と言われて一瞬ドキッとした両親。父の留学でスウェーデンに住んでいた両親は確かに所得税は納めていなかったが、二十五パーセントという消費税を払っているのだから、堂々としていようと思ったそうだ。

二十五パーセントの消費税、五パーセントの日本と比べると、随分高い印象があるが、一年間という短期の留学にも関わらず、家族の歯科検診や、僕が母のお腹にいた時の検診費用、小学生だった姉の学校も全部無料だったそうだ。フリーの施設で優雅に暮らすお年寄りの姿も印象的で、老後の心配のない福祉の国スウェーデンがうらやましく感じたそう

だ。

両親や姉からスウェーデンの素晴らしさを聞いていた僕は、どうしても行きたくなった。小学六年生の時にその機会が訪れ、僕は、

両親や姉達とスウェーデンの思い出を共有できることを嬉しく感じた。

憧れのスウェーデンは、本当に美しい国で何事においても成熟した国と感じた。

父の友人のセカンドハウスに招待された時、所得税六十五パーセントと高額なのになぜこんなに裕福なのだろうと不思議だったが、将来の不安がないから消費にお金を回せるのではないだろうかと思った。

今、日本では衆議院選挙のまっただなか、消費税についても争点になっている。自分達にとっても消費税が上がることは、決して嬉しいことではないが、僕がこの目で見てきたスウェーデンのように、学費や医療の無料化や老人保障の充実が進むのであれば、増税も悪くないと思う。増税と共に、教育にも力を入れ、ニートやフリーターを減らし、個々の

所得を増やし、税収を増やすことも重要と考える。そして、税金の使い道にも熟慮に熟慮を重ね、無駄使いを無くしてほしい。

今日は、燃えるゴミの日だった。集積所に山と積まれたゴミを集めて燃やしてくれるのも税金。ゴミの袋を有料にしている地域もあるが、幸い福島はまだ無料だ。当たり前のように借りてくる図書館の本や僕達サッカー部がお世話になっている十六沼のグラウンドも大人達が払ってくれる税金でまかなわれている。

僕は将来、喜んで納税できる大人になりたい。それは必ず自分に何らかの形でかえってくるのだから。

